



第24号  
発行所  
県支部事務局

支部長御挨拶



新潟支部長  
木南 誠

今年度、東  
京理科大学同  
窓会「理窓会  
」は、新たな

役員組織に改編されました。従来の肥大化した幹事会を四年任期制の代議員による代議員総会にし、幹事会のメンバーでなかった支部長の代議員兼任などを軸として、時代に即応した機能的な組織として生まれ変わりました。六月の代議員総会もスムーズに進行し、山田義幸新会長を承認、新会長の指名により副会長が委嘱され、会長副会長の指名により常務委員が会長から委嘱され就任、前会長の東京理科大学塚本理事長は理窓会名誉会長に就任されて、新たな一歩を踏み出しました。

本県の代議員数は、支部長と各支部に割り当てられた一名の他、会員数により一名が増員され三名となりました。二名の代議員については、八月の支部総会においても報告させていただきましたが、若井静男顧問と室岡政幸副会長に委嘱させていただきました。

支部は、支部としての独自の組織・活動が認められています。次期支部長の選出に向けて、従来二年任期で選出してきた支部長の、四年任期制についても検討していく必要があると考えています。

会員の皆様のご意見やお知恵をお借りしたいと思えます。

新潟支部総会が、去る八月二十六日(土)新潟子サンホテルを会場として、午後二時から二六名の出席で開催されました。大学からは長岡出身の渡辺恒夫常務理事、理窓会からは、山田義幸新会長にお越しいただき、理窓会役員組織の改編や葛飾キャンパス構想など、今後の方向についてお話を聞くことができました。その後、総会、そして懇親会と和気藹々の中散会しました。出席者は二六名と少なかったのですが、新潟県高等学校野球連盟会長をはじめ多士済々、話題も多岐にわたりました。是非、多くの若い方々にも出席していただき、総会が新たな出会いの場となればと考えております。

どんな時代どのような世の中になろうと、人と人とのつながりは大切です。同窓というだけで、不思議と親しくなることができ、新たな人と人とのネットワークを作ることできます。理窓会新潟支部がそのような場を提供できるように、あと半年あまりの任期を微力ながら務めていく所存で有ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

◆新潟支部総会◆

平成22年8月28日(土)理窓会新潟支部総会が下越地区のお骨折りにより、チサンホテルで開催されました。

総会での議事の内容につきましては、後述の通り承認されましたことを報告いたします。

今回は、理窓会会長の山田義幸様、理科大学常務理事の渡辺恒夫様においてい



ただき、御講演を賜りました。心より感謝申し上げます。

来年度は中越地区の当番となっておりますのでよろしくお願いいたします。

支部長 木南 誠

副支部長

岩根 卓司	室岡 政幸
森 久	中野 晋
坂上 隆	熊谷 正美
水島 繁満	佐藤 茂樹
加藤 弘	日野 顕英
上野 順治	竹内 文亮
志田 重道	高畑 秀紀
山田 亮一	上杉 肇
平成22年度版名簿に記載	
平成22年度版名簿に記載	
平成22年度版名簿に記載	
顧問	

◆平成21年度事業報告◆

- 支部役員会開催 7月11日 新潟会館 17名
- 支部総会開催 8月22日 高陽荘 20名
- 会員名簿発行(8月版) 8月22日 A4 24頁 30部
- 研修会開催 10月11日 新潟会館 12名
- 会報「新潟理窓」発行 4月17日 B5 4頁 569部

◆平成22年度事業計画◆

- 支部役員会開催 6月27日 新潟会館 14名
- 支部総会開催 8月28日 チサンホテル (新潟市) 26名
- 会員名簿発行(8月版) 8月22日 A4 24頁 30部
- 研修会開催 10月3日 新潟会館 13名
- 会報「新潟理窓」発行 1月下旬 B5 4頁 600部

・会員名簿発行(3月版)  
3月下旬 A4 24頁100部

◇平成21年度会計収支決算◇

○収入の部

繰越金	314,165円
会費	68,400円
臨時収入	2,000円
本部補助	55,000円
合計	439,565円

○支出の部

支部総会補助	57,000円
会議費	20,322円
名簿・会報	10,525円
送料	51,960円
振込手数料	80円
事務用品	510円
資料代	6,000円
合計	146,397円

◇平成22年度会計予算◇

○収入の部

繰越金	293,168円
会費	70,000円
臨時徴収	5,000円
本部補助	45,000円
雑収入	832円
合計	414,000円

○支出の部

支部総会補助	60,000円
会議費	20,000円
地区還元金	4,000円
名簿・会報	20,000円
送料	73,500円
事務用品	10,000円
資料代	6,000円

予備費 220,500円  
合計 414,000円

近況報告



副支部長  
志田 重道

この4月に  
県立柏崎翔洋  
中等教育学校  
に転勤になり  
ました。本校は、本県で2番目の中等教育学校として、平成15年4月に開校し、本年3月には第3回目の卒業式を実施し、今年で8年目を迎えます。

本校の教育理念は、「学力の向上、社会性・人間性の啓発と創造力の育成、気力と体力の錬成」であり、教育目標は、「主体的に学び真理を尊ぶとともに、豊かな人間性や創造力を身につけ、国際的な視野に立ち社会の発展に貢献しうる積極有為の人間を育成する。」であります。また、「基礎的・基本的学力を培うとともに、自主的・積極的な学習態度を育成する。」「社会規範を遵守、厳しく自己を律する態度を育成する。」「心身を鍛錬し、たくましい気力、体力を育成する。」という教育方針に沿って、歴代の校長先生方及び教職員が一丸となった教育活動が行なわれています。今春までに卒業した一期生・二期生の生徒は、東京大学(3人)、大阪大学(1人)、東京工業大学(2人)、早稲田大学(13人)、慶応義塾大学(12人)に合格するなど、大きな成果をあげております。

このような状況の中、本校に赴任できたことを喜ぶとともに、これまで以上の成果をあげなければならないとの責任の重さを感じ、身の引き締まる思いでありました。

翔洋に赴任して、最初の職員会議では、①原点に戻って、本校がどうあるべきか、議論したい。

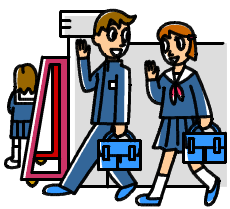
・現状に満足することなく、これまでの成果を検証し、次の10年につなげていきたい。

②「明るくたくましい進学校」にしたい。  
・生徒が朝から元氣よく挨拶ができる学校にしたい。

③当たり前のことができる生徒を育てたい。  
・「遅刻をしない」「挨拶ができる」「人の話が聞ける」といった「当たり前のこと」を自然にできる生徒を育てたい。

④組織で動く学校にしたい。  
・報告・連絡・相談を確実にしてほしい。

ことを、先生方に話をしました。こんなことで、柏崎翔洋中等教育学校での勤務がはじまりました。現在は、まだやりたいことのほとんどができておりませんが、素直でがんばりやの生徒たちと、やる気のある一生懸命な先生方と楽しんでおります。



最近思ふこと



副支部長  
高畑 秀紀

副支部長として大役を仰せつかり身の引き締まる思

いです。新潟市立巻西中学校に勤務しています。毎回、理窓会便りを楽しみに拝見させてもらっています。理窓会新潟支部の発展と親睦のため、力不足ではありますが、努力させていただきますと考えています。義務教育関係の理窓会会員も年々増えていきますので、中高連携を通しての交流も深めていただければ有り難いです。

さて、私自身の大学時代の思い出は何と言ってもあの神楽坂の急勾配と雀荘屋、映画館、喫茶店で友情を深めたことでもあります。四九号棟の教室の広さに圧倒されたことやサークル(映研)での日々とアルバイトに没頭したこと等も思い出されます。当時、学科内でも二百名近くいたので、顔と名前が一致しなくて苦労しました。しかし、周囲の仲間の学生の研究意欲や先見性、知識量に感化された実験や卒論研究の日々は人生の糧となっていますが、「少年老い易く学成り難し」を肌で感じる年齢になってきました。

中学校勤務を通して、昔と違った意味で生徒指導の困難さを感じています。具体的には、通常学級での特別支援の必要性やいじめ・不登校対応の厳しさであります。確かに教員の指導の不徹底から起こっている事例もありますが、社会性や規範意識、集団生活の規律の確立は、保

護者も巻き込みながらどの学校でも教員  
 の会意でやり遂げなければならぬと日々  
 感じています。また、今日的課題であ  
 ります教員養成についてです。大学にお  
 ける教員養成の理念の明確化が必要であ  
 ります。教職課程での改善・充実や履修  
 によって基礎的・基本的資質・能力を基  
 盤にした専門力が求められています。同  
 時にこの専門力と豊かな社会性を備えた  
 人間力を様々な研修や親睦の中から培っ  
 ていくことも教員に求められています。  
 日々の研鑽を通しての人格形成を大切に  
 したいものだと感じています。理窓会  
 の会員は、様々な分野で活躍し、才覚を  
 発揮しています。理窓会の絆や出会いを  
 通して人格の幅広さを磨きたいものだと  
 感じている次第です。どうぞよろしくお  
 願いいたします。

御挨拶



副支部長  
山田 亮一

この度理窓  
会新潟支部副  
支部長を仰せ  
つかりました

山田亮一です。

現在は、県教育庁 下越教育事務所に勤  
 務し、学校支援第一課長を務めておりま  
 す。主な仕事としては、管内の小中学校  
 を訪問し、各校の管理状況等の点検、指  
 導等を行っております。

理窓会新潟支部の総会には、これまで、  
 毎年の参加は叶わず、時々参加をさせて  
 いただいております。三十年以上にわ

たり、義務教育諸学校に関わる教員とし  
 て勤務して参りましたので、理窓会の皆  
 様と語り合える場合は、一般企業での研究  
 開発の先端分野に関わるお話や高等学校  
 教育と義務教育の違いや連携の大切さ  
 等、私自身にとつてたいへん有意義で、  
 また、毎日の日常と違う刺激が新鮮で、  
 楽しみな会の一つです。

また、本部からおいでいただく来賓の  
 皆様からのお話や、現在の東京理科大学  
 で進められている研究内容等に関わる情  
 報は、学生時代に戻った気持ちでお聞き  
 しながら、タイムスリップした至極の時  
 間が過ぎるようなも感じておりました。

ところで、学校教育は、関係法の改正、  
 それに続く学習指導要領の改訂、そして  
 政権交代の余波の直撃により、来年度の  
 学校の姿が、今、子どもたちと向き合っ  
 ている教職員にも見えない混沌とした時  
 代を迎えております。

テレビや新聞では、来年度から使用す  
 る小学校の教科書がどの教科もこれまで  
 の教科書と比べて2倍の厚さになったと  
 いうような保護者や視聴者に関心の高い  
 事柄が報道されています。

しかし、一方で、あまりニュースにな  
 らない部分では、文科科学省が学級定数  
 をこれまでの四〇人からより少人数にし  
 ようと検討している等の報道がありま  
 す。

ところが、国の財政状況も関わって、ど  
 の程度の実現が見られるのか、現在加配  
 教員（標準法の定数を超えて配置されて  
 いる教員）として配置されている教員が  
 どうなるのか等は、全く闇の中です。

現在義務教育諸学校で校長を務めてい

る理窓会員も多いと思いますが、次年度  
 の学校経営方針を考えたくても、自校に  
 来年度何人の教員が配置され、何学級の  
 学校になるのが見えない状況です。  
 このような学校経営困難期に、理窓会  
 の皆様と情報交換しながら新潟県の子ど  
 もたちによりよい教育を提供できたらと  
 考えているこの頃です。

お世話になりますが、よろしくお願  
 いいたします。

御挨拶



副支部長  
上杉 肇

この度、  
副支部長を  
仰せつかり  
ました。先

輩諸氏を見習い、理窓会新潟支部の発展  
 に寄りたいと考えております。

11月に久しぶりに神楽坂に行ってきた  
 した。たまたま、関東に出張しており、  
 その期間にホームカミングデーがあった  
 のです。久しぶりに見る校舎に昔のイメ  
 ージはありませんでした。一号館の階段

教室で、一生懸命キャベツを刻み、餃子  
 を作った思い出は遠い過去のものになり  
 ました。ホームカミングデーでは、藤嶋  
 昭学長の「教育も研究も感動から」とい  
 う講演を聴いた後、卒業20・30・40周

年懇親会に参加しました。誰とも連絡を  
 取っていないかたのようですが、同じ学部学  
 科で学んだ仲間がいて、話が弾み、楽し  
 い時間を過ごせました。また、母校が発  
 展していることは、OBとしてうれしい

限りでした。また、機会があれば、出か  
 けたいと思っております。  
 理窓会新潟支部の活動ですが、近年、  
 総会参加者がやや少ない状況です。案内  
 が届きましたら、是非、欠席でも返事を  
 お願いします。また、ご都合のつく場合  
 は、ご参加ください。よろしくお願  
 いいたします。

職務発明と特許権に係る

S 50工・機

佐藤 茂樹

社内の特許関係業務に就いてから十数  
 年になる。出願から特許取得まで、更に  
 権利維持など永年関わっていても中々奥  
 が深くまだまだ分からないところが多い  
 というのが実状である。だいたい前になる  
 が本会報に「知的財産権」（現在は「産  
 業財産権」という場合が多い）という主  
 題で企業活動にとつての技術開発の重要  
 さについて書かせて頂いた。言うまでも  
 なく、今後世界の中で日本のような少資  
 源国が生きて行くためには益々の先進技  
 術の開発、活用が重要であることは明ら  
 かである。

ところで、一般企業において従業員が  
 研究・開発業務を通じて発明をした場  
 合、その権利を会社に譲渡し、会社は独  
 占的に権利を実施できるとするのが通常  
 である（基本的に法で定められる）。企  
 業が設備、研究資材など多額の設備投資  
 を行い、その元で研究するという背景が  
 あるからだ。

このような発明を職務発明というが、  
 譲渡した見返りに発明者である従業員は  
 会社から発明の貢献度によりそれに見合



った報酬を受けることができる。しかし従来この報酬は米国などに比較し日本では極端に少額であり、出願奨励金(精々数万円どまり)という形でわずかに支給される場合がほとんどである。一方譲渡された会社側はその資本力に物を言わせ、数十億、数百億の利益を上げることが可能であった。これは誠に理不尽で、これでは独創的な研究者が育たないと主張する声が十年ほど前から急激に上がり、職務発明に多額の報酬を求める訴訟がブームとなった。

その中でも特に世間の関心を引いたのが、青色ダイオードの中村修二教授(カリフォルニア大学)の特許係争であろう。詳細は省くが、最終的に中村教授は元の勤務先企業から8億円余を受取った。

また解決してから既に数年経つが、関連会社で同様な特許係争があり私も会社側担当者の一人として3年ほどの間にこれに関わったことがある。前述の額と桁は違いますが、和解金、弁護士費用、東京地裁へのたびたびの出張経費等々合わせて数千万円掛かったと聞いた。

現在は一時に比べこのような特許係争の件数は落ち着いているようだが、この国が技術立国として発展してゆくために企業としては従来の考え方から脱皮し、長期的な視点に立って優秀な研究者、技術者の育成のため(無用な係争を避けるためにも)、発明による企業利益を還元する制度、システムを早急に構築することが必要ではないだろうか。

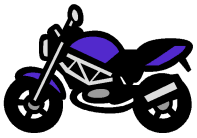
### 人との出会い

S58理工・数  
樋口 裕之

高校のころからバイクに乗っている。その後も何台ものバイクを乗り継いで、三十になったとき、初めて北海道へのソロツリングに出かけた。一日目の夜、稚内のキャンプ場にテントを張り、ご飯を炊き、焼肉を焼き、稚内の夜景を見下ろし、満天の星空の下で、おまけにラジオでは巨人が勝っている試合が流れている。こんな生活なら、一生続けてもいいと思った。

北海道は、その大きさとバイクで走るとき気持ちよさとおいしい食べ物が多く、多くの人と出会えるのも楽しい。

ある夜のキャンプ場で、ライダーが集まり酒盛りが始まる。隣に座った会津から来た人から、「自分の祖父から上の人は、薩摩と西郷隆盛が大嫌いだ。」という話を聞き、お返しに村上で戊辰戦争を調べている人から聞いた西郷隆盛の話をしていたら、隣にいたおじいさんに「そんな話、薩摩隼人に聞かれたらただじゃすまないぞ。気をつける。」と脅された。最後には、そのおじいさん(福岡出身)も、一緒に楽しく飲み明かしたのだが、まだ百年以上前のことが今も行き続けているところがあるということに驚いた。



### 教員生活を振り返って

S62理・応数  
阿部 正幸

ド根性ガエルに登場する町田先生の口癖は「教員生活25年・・・」と云うフレーズでしたが、私も来年25年を迎えます。そこで25年の教員生活を振り返ってみました。

大学を卒業後、栃尾の定時制に赴任しました。栃尾は(昼間部と夜間部)の3部制の学校で、私は夜間部でした。夜間の職一人の計7人でした。悪ガキが多く生徒指導が絶えない毎日でしたが、教員の平均年齢が20代という若さで、毎日みんなと飲みながら、一致団結して頑張りました。悪ガキの生徒たちも付き合っているうちお互いに溶け込み海に出かけたり、カラオケに行ったり、川に泳ぎに行ったりしました。今では考えられませんが、また、栃尾は自然に恵まれ、山菜やキノコが豊富だったので、地域のひととよく山菜採りに出かけました。ここで山菜に詳しくなり、いまでも山菜採りをやっています。また油揚げも大変おいしいので年に1回は買いに行きます。

さて、2校目は長岡向陵高校に赴任しました。向陵高校は創立10年と新しい学校で職員集団も若く、新しいことに何でも挑戦できる活気のある学校でした。「やっぱり好きなのが向陵」のキャッチフレーズが印象的で自分も好きな学校です。文武両道を目指した学校で部活動は大変盛んでした。生徒の挨拶は県下一の学校

だと思えます。ここでの思い出は8年間のバスケット部でした。私はここでバスケの顧問になり、ほとんど休みのない毎日とかなかなか勝てず生徒と言い争うことも辛いこともありましたが、県総体でベスト16になりウィンターカップの出場権を得たことが大変印象に残っています。また個人的には教職員テニス大会で2年連続優勝したことが向陵高校のいい思い出です。3校目は直江津高校に赴任しました。直江津高校は4階から海が見え、晴れた日は青い海が大変奇麗で「今日も一日頑張るぞ」という気持ちになれる学校でした。LHRで海に行ける学校はめったにないと思います。生徒は素直で行事で大変盛り上がる学校でした。ここでの思い出は合唱祭です。高校で合唱祭をやっている所は数少ないと思います。曲決めから始まり、伴奏者を決めることなど難題が多く、いくつかの難題を乗り越えクラス全体が一つにまとまったとき素晴らしい感動を覚えます。この直江津高校が無くなってしまおうのが大変残念です。そして4校目が現在勤務している北城高校です。今年が110周年があり現在、大忙しの毎日ですが、自分の母校でもあるので、是非成功させ歴史に残る1ページになるよう頑張りたいと思います。残り10年「やっぱり好きなのが教員」

◇事務局からの連絡◇  
年会費は1000円です。同封の振込用紙にてお願いします。同封されていない場合は納入済みです。納入確認後、該当者に名簿を送付いたします。